

---

# 始まりの場所へ

初心者

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

始まりの場所へ

### 【Nコード】

N5099Z

### 【作者名】

初心者

### 【あらすじ】

リンクが時を越える物語です。

## 再開（前書き）

キャラ崩壊ギリギリまでがんばりますので温かく見守ってください。

## 再開

トアル村

自然が残っているところに馬車がやってきた。

村長とその娘のイリアは突然やってきた客人に驚きイリアは呼びびに向かう。

「はあ！」

今日もトアル山羊を小屋に戻した青年が馬のエポナから降りる。

「今日もご苦労さん」

青年は笑顔で頷く。

「リンクー」

リンクと呼ばれた青年が振り返る。

イリアはリンクの側にやってきて息を切らす。

「リンク、お客さんが来てるよ」

「リンク待たせるのもまずいからはやくいってきな」

リンクは頷きエポナにイリアを乗せて走る。

「はあ！」

村長の家にはすぐにつき馬から降りる。

すぐに馬車に気づきその様子から誰が来たのか理解した。

リンクは慌てて村長の家の中へ入った。

その馬車の中で誰かが見ていたことも気がつかずに。

村長の家の中に入ったリンクの目の前に知人がいた。

その容姿は王族衣装を身にまとった女性がいた。

「リンク」

女性が挨拶をする。

リンクも久し振りにあう知人に返事をした。

「ゼルダ」

ゼルダと呼ばれた女性はこのハイラルを統治するハイラル王の娘、ゼルダ姫だった。

ガノンドロフからハイラルを救った姫としての功績が評価され女王となっていた。

「リンク、また力を貸していただきたいのです」

ゼルダの表情が暗くなる。

「私、夢を見たんです。再びこの世に闇がもたらされると。最近も  
う一つマスターソードの夢も見ています。リンクわかってくれます  
か？」

ゼルダはリンクに手を差し出す。

リンクも手を差し出す。

「ありがとう」

ゼルダは笑顔になる。

「リンク、旅のお供を私からプレゼントします」

リンクは危険な旅と一緒にする相手はいらないと断ったがゼルダは  
笑顔で言った。

「大丈夫です。あなたと旅したことがあるかたです」

ガチャ

扉が開く。

「リンク」

リンクが振り返るとリンクは笑顔に目には少し涙を浮かべてその者  
に近寄った。

## 影の王女

リンクが近づくとその者がしゃべりだした。

「どうしたんだ？ワタシの魅力にやられちゃったか？」

と冗談をとばしていた。

「ミドナ」

ミドナと呼ばれた女性は影の世界、トワイライトの王女で過去にトライフォースに対抗して影の結晶石という禁断の力を創造しハイラルから影の世界に追放された一族の末裔だ。

「また一緒に旅をするからヨロシクな」

そう言ってミドナは影の魔力を使い小さくなった。リンクからしたら懐かしい容姿だった。

リンクはミドナを抱き上げる。

「ちょっとハズカシイじゃないか」

ミドナはリンクの影に逃げ込んだ。

「リンク、夢のお告げだと森の聖域にむかって欲しいのです。あとはわかりませんが旅の無事を祈ります」

ゼルダはそう言ってトアル村を去った。

家に帰ったリンクは支度を始めた。

「ヤッパリその服にあってるな」

ミドナはリンクの容姿に感想を言う。

緑の帽子緑の服だ。

準備を終えたリンクは出発する事にした。

「リンク」

リンクの家の前でイリアが呼んでいた。

リンクはイリアのもとへ向かった。

## リンクの装備、奥義（前書き）

基本ベースはトワイライトプリンセスの装備です

## リンクの装備、奥義

トアルの剣、ハイリアの盾、勇者の服、ゾーラの服、マジックアーマー、アイアンブーツ、ダブルクロシヨット、ホークアイ、疾風のブーメラン、コピーロッド、スピナー、チェーンハンマー、カンテラ、釣り竿

水中バクダン30個、弓矢40本、パチンコ30個、空きビン3本  
(妖精入り)

とどめ、盾アタック、背面切り、兜割り、居合い、大ジャンプ切り、大回転ぎり

獣リンク

ミドナジャンプ、ミドナワープ、影の結界

ハート20、ルピー1000

## イリア

リンクがイリアの前にやってくるとイリアが言い出した。

「行くんだ」

リンクは小さく頷く。

「帰ってきてくれるよね？」

冒険に危険はつきものだもちろん命の保証などない。

リンクは小さく笑みを浮かべただけに留めた。

「いってらっしゃい」

イリアはリンクを送り出した。

リンクは振り向くこともなく走っていった。

イリアは複雑な気持ちでそれを見送った。

「なあリンク」

ミドナがリンクに話し掛ける。

「あいつ、ホレてたみたいだな」

リンクは驚いた顔をしながらも疑問の表情だ。

「モテモテだな・・ワタシも正直になれならナ」

リンクがミドナをみる。

「なっなんでもない、ほら森の聖域にいくゾ」

ミドナは不思議な形をした石を取り出した。

「さっさとオオカミになってワープするぞ」

ミドナはリンクに石を当てた。

リンクは一瞬にして獣姿になった。

「いくゾ」

リンクとミドナは一瞬にしてフィローネの森から森の聖域へワープした。

## 退魔の剣

リンクとミドナは森の聖域に到着した。

「リンク、やっぱり石はとれないな、あの剣に頼るしかないナ」

リンクは走り出し聖域の奥にある剣に近づいた。

マスターソード、この剣がガノンにとどめを刺した。

突然、マスターソードが輝きだしリンクの中から石が飛び出した。

リンクが元の姿に戻る。

リンクはゆっくりと台座からマスターソードを引き抜いた。

ゴゴゴゴゴッ

マスターソードが引き抜かれた瞬間に聖域が大きく揺れた。

聖域の下から巨大な石壁が現れた。

マスターソードが輝き、それに反応して石壁が形を変えていく。

何もないところから歯車が出てきて形を変えた石壁について回転を  
しだした。

「どつやらどこかにつながっているみたいダナ？」

リンクは歯車に近づく。

「いこつリンク」

歯車の間からリンクは走り抜けていった。

## ナゾの老婆

しばらく走るとやっと出口が見えた。

「リンク、注意深くナ」

リンクはゆっくりと出口から出た。

出るとそこは何かの建物の中だった。

だが屋根が無いので廃墟だろうか？

「お主は何者じゃ？」

さっきまで走ってきた通路はなくなっていて代わりに老婆がいた。

「場合によっては許さぬぞ」

老婆は左手から青い玉をつくった。

リンクは剣を鞘からだした。

すると老婆の青い玉が消えた。

「まさか・・・それはマスターソードか？」

リンクは頷いた。

「剣を持っている手の甲を見せるのじゃ」

リンクは左手にマスターソードを持ち替え右手の甲を見せた。

「それは勇気のトライフォース！トライフォースを宿しておるのか？」

リンクが頷くと老婆は落ち着きを取り戻した。

「名はなんと云う？」

リンクは自らの名前を言った。

「ほう、ではそなたは別の時間から来たのじゃな？」

リンクがよくわからない顔を見ると老婆が微笑んだ。

「そなたが通ってきた穴は時の扉といってな時を渡る扉なのじゃ」

リンクは頷いた。

「スカイウォードは知っておるのか？」

老婆が訪ねたがリンクは首を横に振った。

「マスターソードを天に掲げるのじゃ」

リンクはマスターソードを天に向けた。

するとマスターソードに力が集まった。

「それがスカイウォードじゃ、聖なる力」

リンクはスカイウォードを覚えた。

「そなたはこれよりフィローネの森に向かうのじゃ」

老婆がリンクに何かを渡した。

地上の地図を手に入れた。

「フィローネの森へはその扉から出ればいけるじゃろ」

リンクは頷き右の扉から出た。

## 襲われるキュイ族

リンクがフィローネの森を走っていると不思議なことが起きていた。

「リンクもそう思うか？」

さっきまでであった魔物の気配が消えていた。

「キュ〜〜助けて」

少し先に植物が魔物に襲われていた。

リンクはマスターソードを天に掲げ力を溜めた。

素早く走り魔物の集団にスカイワードを撃った。

ギャー

一撃で魔物5体を倒した。

リンクは植物に近づいた。

「食べてもおいしくないキュー、キュー？」

植物が起き上がりリンクに気がついた。

「あれ？戻ってきてくれたのかキュー？」

リンクは首を傾げた。

「もしかして道に迷って戻ってきたのかキュー？」

初めてあった相手に失礼だと感じたリンクは不機嫌な顔をしたが話がこじれたら困るので話に合わせた。

「でも助かったキュー、ありがとキュー」

彼らはキューイ族と言って先ほどリンクと同じ格好をしたものに助けてもらったようだった。

「近くまで案内してやるキュー」

キューイ族の案内でツタが垂れている場所に付いた。

「この先が天望の神殿だキュー」

リンクはキューイ族に例を言って先に進んだ。

「リンク、さつきここに来るとき鳥の像があったよな？あっちにもあるな」

ミドナが鳥の像に気がついた。

「ポータルつくっておくか？」

前回の冒険のときポータルワープは助かったのでリンクは賛成した。

「それじゃあ鳥の像の前に来たらワタシを呼びな」

リンクはなんとか鳥の像の前に来てきてミドナを呼んだ。

「ココダナ、ヨッ」

ミドナが空に指を向けるとあの時みたいな空間ができた。

「ここからは狼でイクウゼ」

ミドナはリンクに石を当てた。

リンクはミドナジャンプを駆使して天望の神殿の前に来てきた。

「ここにも鳥の像がアルナ」

ミドナはポータルをつくり行ける場所を増やした。

「イクゾリンク」

リンクは天望の神殿へ足を踏み入れた。

## 鉢合わせ（トワイライトリンク視点）

狼姿のまま天望の神殿に入ったリンクだが不思議なことに敵と全く出会わなかった。

あるのは魔物の残骸で誰かと闘って敗れた感じだった。

「もしかしてワタシ達ってイラナカッタ？」

ミドナが悪態をついていた。

リンクはとりあえず先に進むと右の道に穴があり誰かに開けられたら跡があった。

リンクは用心深く入っていった。

すぐに出口にでて降りると周りが水に囲まれた足場に出た。

扉は3つありすべて開いていた。

リンクは正面の扉を開けた。

広い空間にでた真ん中になにやら怪しげなドームがあった。

「ギヤウウ」

ドームの中から魔物の断末魔が聞こえた。

しばらくするとドームの上にある切れ目から謎の飛行体がでてきた。

「ムシか？」

ミドナはまるでおもちゃに興味のある子供の表情になっていた。

一緒に冒険したときの少女の姿だから仕方がないがプリンセスのときの表情だったらとリンクは狼姿でニヤリとした。

「ワッワラウナ！」

先ほどの飛行体はドームの上部にある結晶体に当たった。

すると閉じていたドームの入り口の格子が取れて扉が開いた。

「なっ？」

ミドナは驚いた。リンクも驚いた。

そこに立っていたのは自分が冒険に使っている服をきた瓜二つの青年が立っていたのだ。

しかもこちらを敵と見ているようで臨戦態勢を取っていた。

「はああああ」

青年は突っ込んできた。

## 鉢合わせ（スカイウォードリンク視点）

小さな鍵を開けたリンクは次の部屋にやってきた。

マップをみる限り正面にあるドームの中にアイテムがあるようだった。

「マスター」

ファイが呼んでいる。

「この天望の神殿に新たな侵入者、警戒率80%」

リンクはこんなところに味方が来るとは思わなかったので敵と判断した。

リンクは正面の扉をあけた。

すると扉に格子がかかり真ん中にある骨が動き出し骨の兵士になった。

苦戦したが倒し宝箱からビートルを手に入れた。

しかし扉は開くこともなくビートルで遊んでいると亀裂を発見してそこからビートルを出して結晶体にあてた。

「マスター、例の侵入者がこの部屋の外にいます」

ファイが警告した。

リンクは扉を開けた。

そこには小さな魔物を乗せた魔物がいた。

(こいつ、今までの敵と違う)

本能的にリンクは感じ取った。

リンクはファイに情報を頼んだ。

「姿形からしてファイの記憶にはありません」

ファイはリンクに謝罪した。

リンクは剣をかまえた。

「はぁあぁあ」

リンクは魔物に突っ込んだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5099z/>

---

始まりの場所へ

2011年12月24日00時00分発行